

宝塚市商工会の37年、会報224号の歩みダイジェスト

時代変遷の中で、地域経済と会員企業の発展・隆盛を願い続けてきました。

会報の歩み

第1号 (37、7)	「商工会だより」として創刊。不定期刊行の随時発行としてスタートした。
第2号 (39、2)	「商工会」(コース)にタイトル変更。(会員数908)
第3号 (40年度)	この3号までが手書きのガリ版印刷。当時の決算書をもとに広報費24,952円。
第4号 (41、1)	印刷による新会報がスタート。公認会計士を招いての専門相談日の案内。
第6号 (41、7)	会長に北勝二氏を再任。副会長は野条・川喜田・小野塚の3氏に。田上専務理事、事務局局長は宝塚市観光商工課長兼任。職員は4名(男女各2)。
第7号 (41、11)	原動機付自転車自動車強制保険の対象に。制度を詳しく紹介。
第8号 (41、12)	一回の発行部数の費用にあてため、広告の募集を開始。
第10号 (42、6)	会館建設募金状況を報告。2、920万円を41年度で達成。
第14号 (43、7)	念願の宝塚商工会館竣工、4月26日に竣工式を挙行。建設費3、359万円。本号より、印刷インキを茶に変更。宝塚松江姉妹都市記念連合物産展。
第15号 (43、9)	会章を公募、決定。県、および中小企業事業団による初の「商店街診断」。
第16号 (43、11)	第3代会長に小野塚裕一郎氏。副会長に野条・岩堀氏。
第18号 (44、7)	部会活動、委員会活動の活性化による事業推進を決定。
第20号 (44、12)	従業員の福利施設として産業会館の建設を市へ要望。西宮職安の協力を得て、商工会館に「パートタイマー臨時職業相談所」の窓口を開設。市場部会第10回野球大会。
第21号 (45、1)	市内各中学校の進路指導担当教師と職

宝塚市の歴史

昭和36年5月	市長選挙で田中詮徳氏が再選
昭和37年6月	市10ヵ年建設計画決まる
昭和37年6月	安全都市宣言
昭和38年3月	花いっぱい運動を始める
昭和38年4月	市消防庁舎が完成
昭和39年5月	市長選挙。田中詮徳氏が3選
昭和39年6月	十万道路完成、開通式を挙行
昭和39年10月	宝塚観光ダムが完成
昭和39年11月	市制10周年記念式典を開催
昭和41年2月	西田川地区で大火
昭和41年5月	宝塚保健所完成、業務を開始
昭和41年10月	宝塚市民会館が開館
昭和42年1月	市の人口が10万人を突破
昭和42年7月	豪雨により市内各所に被害発生
昭和42年8月	松江市と観光姉妹都市提携を結ぶ
昭和43年3月	市花にスミ、市木にサザンカが決まる
昭和43年5月	市長選挙。3代目市長に北俊三氏が当選
昭和43年8月	市立スポーツセンターが完成。市民プールオープン
昭和44年4月	事務処理の効率向上を図るため、市役所にコンピュータを導入
昭和44年5月	市制15周年記念式典を開催。市民憲章を制定
昭和44年9月	武庫川観光大噴水が完成
昭和45年5月	市立逆瀬川公民館(現在の中央公民館)が完成
昭和45年7月	中国自動車道豊中・宝塚間が開通
昭和45年11月	新こみ焼却炉の本格操業開始
昭和46年2月	市長選挙。4代目市長に友金信雄氏が当選
昭和46年4月	第1回宝塚植木まつりを開く
昭和46年5月	西谷地区一帯「宝塚市自然休養村」に指定
昭和46年11月	市立勤労福祉開館、勤労青少年ホームが

国内・国外のできごと

昭和36年	大蔵省・日銀、8月の国際収支は戦後最大の赤字と発表。閣議、貿易為替自由化計画の繰り上げを決定(昭和37年10月1日現在の自由化率90%とする)
昭和37年	ソ連、宇宙船ヴォストーク1号、世界初の有人飛行に成功(ガガーリン少佐)
昭和37年	石炭鉱業調査団、エネルギー革命の中での石炭鉱業安定対策につき答申(スクラップ・アンド・ビルド方式など)
昭和38年	堀江謙一がヨットで太平洋単独横断に成功
昭和38年	経済企画庁、37年の経済成長率(実質)5・7%と発表
昭和39年	ダラスで、米ケネディ大統領暗殺される
昭和39年	経企庁、38年度実質成長率は8・3%と発表
昭和39年	日本、IMF8条国に移行、開放経済体制に入る
昭和39年	東海道新幹線開業
昭和39年	第18回東京オリンピック大会
昭和40年	戦後最大の証券不況、年間の中小企業倒産6000件に
昭和40年	朝永振一郎、量子電力学の研究でノーベル物理学賞受賞
昭和41年	41年度経済見通しの改定を閣議報告。実質成長率を8・7%に
昭和41年	メーテル法、完全実施
昭和42年	敬老の日、体育の日を新設(建国記念日は6ヶ月後政令で決定(6月))
昭和42年	外資審議会、資本取引自由化についての答申を提出(100%自由化)普通網・オートバイ等17業種、50%自由化(カメラ等3業種)
昭和42年	欧州共同体(E.C.)成立
昭和43年	東京都知事選で社共推薦の美濃部亮吉当選
昭和43年	政府、43年度経済見通しを決定、実質成長率7・6%
昭和43年	国民総生産(GNP)は1428億ドル、自由世界で米国に次ぎ第2位
昭和43年	政府、水俣病と阿賀野川水銀中毒を公害病と正式に認定
昭和43年	川端康成、ノーベル文学賞受賞決定
昭和44年	日銀、公定歩合を年利建てに改める
昭和44年	宇宙船アポロ11号、人類初の月面着陸に成功。この年、大学紛争激化
昭和44年	政府、昭和45年度経済見通しを正式決定(実質成長率11・1%、消費者物価・昇率4・8%)
昭和44年	八幡、富士合併、新日本製鉄発足
昭和44年	日本万国博覧会が大阪・吹田の千里で
昭和44年	三島由紀夫、盾の会会員とクーデターを呼びかけ、失敗して自殺
昭和44年	ニクソン大統領の新経済政策(金・ドル交換一時停止など)で東京外為市場、大量のドル売り、内買、殺到(ドルショック)。政府、円の暫定的な変動相場移行を発表
昭和44年	1ドル380円の新しいレート実施
昭和44年	新東京国際空港公団と千葉県が、成田空港用地の強制代執行開始。反対派の農民、学生と警官隊衝突



第4代会長
岩堀通夫氏
6期12年・昭和52年〜63年
①宝塚セラニ工業㈱社長

第23号 (45、6)	場実習受入企業との懇談(市教委共催)
第24号 (46、1)	宝塚地区労務改善協会を設立。
第27号 (46、3)	宝塚産業対策懇談会が結成される。
第30号 (47、1)	第一回宝塚地区珠算競技大会を開く。
第39号 (48、9)	設立10周年記念式典。
第40号 (48、11)	青年部会を結成、初会合。
第43号 (49、6)	大規模小売店舗法成立。
第44号 (49、10)	サンビオラ商工会入会。
第52号 (51、11)	宝塚市工業振興連絡会議。
第54号 (52、7)	宝塚市納税協力が発足。商工会と青色申告会が一体化した。
第55号 (52、11)	第4代会長に岩堀通夫氏を選出。副会長に、田上、岡山氏。
第58号 (53、3)	坂井県知事来館、懇談会。
第61号 (54、1)	ニチイ、東へ跡地に進出。
第62号 (54、4)	商工会員シール配布中。
第64号 (55、1)	宝塚市消費動向調査報告。
第69号 (55、12)	売布東の町真池にダイエー進出。
第73号 (56、8)	宝塚マスタープラン成る。
第74号 (56、10)	臨時総代会を開催、定款を一部改正。
第75号 (57、1)	別冊で20周年大会を特集。
第77号 (58、1)	商工会婦人会、結成披露。
第79号 (58、8)	ミス・フレンドシップ宝塚コンテストに初挑戦。100名より3名を選考。
第83号 (59、7)	常勤専務理事、事務局長体制を確立。
第84号 (59、9)	市・商工会・商店連合会の公民合同による宝塚市商業活性化推進本部、設立発会式。
第86号 (60、5)	商工会館前土地購入に係る寄付金状況中間報告。約146万円。
第88号 (60、9)	宝塚市商工議員連盟新発足。
第94号 (62、1)	逆瀬川再開発事前商調協結審。
第95号 (62、2)	別冊で25周年記念シンポジウムを記録。
第97号 (62、11)	25周年記念式典・祝賀会。
第98号 (63、1)	会員増強、目標200会員増。会報編集委員会が発足。
第99号 (63、3)	市内企業のトップが語る現状と夢。会報100号を前にして、編集委員による座談会を特集、新生脱皮について語り合った。

昭和47年4月	オープン
昭和47年8月	宝塚新大橋、歩道橋の渡り初め
昭和48年4月	第1回宝塚まつりを開催
昭和48年5月	市花と緑の協会の発足
昭和48年8月	青年野外活動センターに市立少年自然の家がオープン
昭和49年3月	市の人口が15万人を突破する
昭和49年8月	全国の市街地再開発事業の第1号として阪急宝塚南口駅前に「サンビオ」がオープン
昭和49年10月	市制20周年記念式典を開催
昭和50年2月	宝塚市史第1巻配本開始
昭和50年10月	中国自動車道吹田・落合間が開通
昭和52年4月	市立休日応急診療所がオープン
昭和53年8月	市立体育館がオープン
昭和53年12月	宝塚市民会館で、第1回宝塚市民音楽祭を開く
昭和55年2月	市民合唱団が発足
昭和55年5月	市自然休養村センターがオープン
昭和55年8月	市立図書館、文化施設「ベガ・ホール」がオープン
昭和56年4月	国鉄福知山線塚口・宝塚間複線電化工事が完成
昭和57年10月	市シルバー人材センターを設立
昭和58年9月	台風10号による集中豪雨で、大きな被害が発生
昭和59年4月	市制30周年記念式典を開催
昭和59年5月	市立病院がオープン
昭和59年8月	第1回宝塚国際室内合唱コンクールを開催
昭和60年3月	市制30年史を発刊
昭和60年7月	市総合福祉センターがオープン
昭和61年3月	国から国際観光モデル地区に指定される
昭和61年11月	逆瀬川駅前地区の再開発ビル「アピア3」がオープン
昭和62年2月	市長選挙で、友金信雄氏が5期連続して当選
昭和62年3月	逆瀬川駅前地区の再開発ビル「アピア1」「アピア2」がオープン
昭和62年6月	市観光100年記念式典
昭和62年11月	市の人口が20万人を突破
昭和63年9月	第1回宝塚新能
昭和63年10月	市国際交流協会を設立

昭和47年	ダイエー、8月期決算で三越を抜き小売業日本一に連合車による浅間山荘事件。
昭和47年	日米沖縄返還協定発効。沖縄県が発足
昭和47年	田中首相訪中。周恩来首相・毛沢東出席と会談。国交樹立
昭和48年	欧州通貨危機のため東京外為市場閉鎖。3月にかけて国際通貨危機、スミソニアン体制の崩壊、日本も変動相場制へ
昭和48年	10月6日、第4次中東戦争勃発。23日、第一次石油危機始まる
昭和48年	尼崎市でトレッドベーパー買い占め騒ぎ
昭和48年	パリのベトナム和平秘密会談で、米・北ベトナムが合意。和平協定正式調印
昭和48年	江崎玲奈子IBM研究員がノーベル物理学賞受賞決定
昭和49年	大規模小売店舗法施行(百貨店法廃止)
昭和49年	電力・石油消費規制で東京・大阪の国電が昼間の暖房停止、NHKテレビは23時終了
昭和49年	ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任
昭和49年	フィリピン・ルバンガ島で小野田寛郎元少尉を救出、帰国
昭和50年	昨年度の倒産、過去最高の1万1000件(東京商工リサーチ調査。経企庁、49年度実質GNPは前年度比0・6%減で戦後初のマイナス成長と発表
昭和51年	山陽新幹線、岡山・博多間開業
昭和51年	日本自動車工業会、4月の自動車生産台数は68万3257台で史上最高と発表
昭和51年	昭和50年の企業倒産、1万2000件、負債総額約2兆円
昭和51年	東京地検、ロッキード事件で田中角栄首相を逮捕
昭和52年	政府、53年度経済見通しをGNP20兆6000億円、実質成長率7・0%と決定。この年、年間の円高、中小企業の倒産相次ぐ
昭和52年	日本初の静止気象衛星「ひまわり1号」がNASAから打ち上げ成功
昭和53年	サラ金被害者の会、初めて結成
昭和53年	前年の企業倒産1万8000件(前年度比83%増、負債総額3兆2000億円(同34%増)。大蔵省、昨年度の経常黒字は44億ドルで史上最高と発表
昭和53年	成田新東京国際空港、着工以来12年振りに開港。
昭和53年	日中平和友好条約締結交渉、北京で3年振りに再開、8月調印
昭和54年	灯油、ガソリンなど石油製品一斉値上げ
昭和54年	第1回国公立大学共通一次試験実施
昭和54年	イギリスでサッチャー女史、先進国で初の女性宰相に就任
昭和54年	ソ連軍、アフガニスタン侵入
昭和54年	ソニー、ウォークマン発売
昭和55年	日銀公定歩合を1・75%引き上げ、79年4月以来5度目、史上最高水準の9%に
昭和55年	政府、対ソ制裁措置としてモスクワ・オリンピック不参加を決定
昭和56年	政府、内需拡大の総合経済政策を決定。日銀、公定歩合を1%引き下げ6・25%へ(12月さらに0・75%引き下げ)
昭和57年	福井謙一京大教授がノーベル科学賞を受賞
昭和57年	昭和56年度の輸入額、史上最高の1483億8000万ドルを記録(前年比9・9%増)
昭和57年	自動車国内生産台数も前年に続いて世界一(1117万9962台、前年比1・2%増)
昭和57年	第34回国際捕鯨委員会総会で、3年後から商業捕鯨全面禁止を可決。日ソなどが反対
昭和58年	金融機関、月1回週休2日制実施。日銀、公定歩合を0・5%下げて5%に